

医療・介護連携のための ICT 化に関するアンケート結果のまとめ (令和元年7月調査実施)

目的：医療・介護関係者が医療・介護連携のための ICT 化に関して、どのような考えを持っているか調査することで今後の宇佐市内における ICT 化による医療・介護連携の取り組みの指針とする。

対象：市内医療機関ならびに介護関係事業所(計:142ヶ所)

回答状況：全体……………返却件数	80ヶ所/142ヶ所	(回収率56%)
病院・診療所……………返却件数	24ヶ所/46ヶ所	(回収率52%)
歯科医院……………返却件数	13ヶ所/26ヶ所	(回収率50%)
薬局……………返却件数	19ヶ所/31ヶ所	(回収率61%)
訪問看護ステーション…返却件数	2ヶ所/ 4ヶ所	(回収率50%)
包括支援センター……返却件数	4ヶ所/ 7ヶ所	(回収率 57%)
居宅介護支援事業所…返却件数	18ヶ所/28ヶ所	(回収率64%)

【問1】 ICT 導入の目的で重要と考えること

「医療⇄介護間の利用者・患者情報の共有(35%)」が医療・介護関係者ともに最も多く、多職種の方が医療・介護連携に重点をおいていることがわかる。次いで多かった、「医療⇄医療間の利用者・患者情報の共有(30%)」は、医療関係者の意見が多かった。介護関係者の意見では、「医師やケアマネジャー等専門職間の指示や連携の迅速化(15%)」が2番目に多かった。

【問2】 ICT を導入する場合、希望すること

「操作の手軽さ(48%)」が最も多く、次いで「システムメーカーのサポート(41%)」が多かった。医療関係・介護関係に差はなく、機能の多さより操作の手軽さやサポートが重要と考えられていることがわかる。

【問3】 ICT 導入に関する不安について

「経費について(28%)」がどの事業所でも最も多く、次いで「セキュリティ面(22%)」、「操作面(18%)」の順であった。こちらも、医療・介護関係者の差はなく、多くの方が経費について不安を持っていることがわかった。セキュリティ面についても、個人情報の保護の観点からも不安が多い。セキュリティ面については、特に薬局や介護関係者からの意見が多かった。

【問4】 初期導入費用・システムメンテナンスの更新費用の負担について

「費用負担は事業所ではできない(44%)」が最も多く、次いで、「参加事業所間で均等に負担すべき(29%)」、「その他(15%)」順であった。医療・介護間の差はなかったが、その他の意見として、法人のため単独の事業所だけでは答えられないとの意見もみられた。

【問5】 参加料(ランニングコスト)について

「参加料は負担できない(27%)」が最も多く、次いで「月5千円以内(23%)」「その他(19%)」と多かった。その他の意見として、相場がわからない、や判断が難しい、代表でないのかわからない、等の意見があった。また、医療機関では「内容がよければいくらでもよい(4%)」との意見もあった。

【問6】 ICTシステムを導入することについて

「将来的には導入すべき(67%)」が大半を占め、「早急に導入すべき(9%)」と合わせると、8割近くが導入を希望していることがわかる。「その他(15%)」の意も、コスト面で可能なら導入や個人情報を守られるなら導入、等の導入に賛成の意見も入っていた。一方、「導入の必要はない(9%)」では、コスト面や必要性を考えると導入は考えられない、高齢のため導入は難しい、との意見もあった。

【問7】 システムメーカーを招いた「ICT導入説明会」を開いた場合の対応について

「システムの内容がよければ参加したい(27%)」が最も多く、次いで「他の事業所の参加状況で判断する(24%)」「費用が適切と考えれば参加する(24%)」、また「必ず参加する」も9%あり、約85%の方が参加の意向を示した。

【問8】 既存のICTシステムの中で、使いたいと思うシステムはありますか

97%の方が「特になし」と答え、「ある」と答えた方の意見では「うすき石仏ネット」があがった。

【問9】 独自ネットワークシステムの使用の有無について

「使用している」が51%、「使用していない」が49%とほぼ半々の結果だった。医療関係では約4割、介護関係では約7割が使用しており、居宅事業所のケアプラン作成用のシステムを使用している事業所が多くみられた。

【問10】 その他、全体を通してのご提言やご意見

別紙①参照

【全体のまとめ】

今回のアンケートは、医療・介護関係者の現時点での ICT 化に関する認識や意向調査であり、時代の変化に伴いみなさん『必要性は感じてはいる』が『システム内容や具体的費用についてよく知らない』といった現状であることがわかった。また、システム導入について重要視していることは、機能の多さより操作の手軽さやシステムメーカーのサポートを求めていることがわかる。導入に対しての不安では費用面が一番に挙げられ、操作が簡単で低コストのシステムを求めている。また、費用に関しては単独の事業所では回答ができない、との意見もあり、説明会等を開く際には経営者と実務者双方への声かけが必要と考えられる。医療・介護間での大きな意見の違いはなく、どの職種の方も医療⇄介護間連携に ICT を活用したいとの意見が多く、医療・介護連携の意識が高まっていることが伺えた。

これらの結果を基に、他市の視察内容やシステムメーカーの情報を収集し、今後の宇佐市における医療・介護連携における ICT 化について、関係者はもちろん市の協力もいただきながら検討をしていきたい。